

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム西町

ユニット名 ここにこ西町

自己評価実施年月日 平成 20 年 8 月 22 日

記録者氏名 森田 絵美

記録年月日 平成 20 年 9 月 5 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で見直し、住み慣れた地域での安心した暮らしとなじみの関係を継続する為の支援であることを確認した。	○	地域密着型サービスとして、地域の関係を生かし、事業所独自の理念を掲げていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらい、日々実践の取り組みをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域推進会議等の地域の集まりに参加し、事業所の理解を得るよう、働きかけている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃のあいさつはもちろんの事、町内の定例会に参加している。地域の方と積極的にコミュニケーションをとっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の夏祭りや敬老会等の地域の行事に参加している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	地域ボランティアや看護学生や高校生の実習等の受け入れを、積極的に行っている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員全体で自己評価に取り組み、ケアの統一化やサービスの質向上に努めている。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議では、参加メンバーから意見・要望を受け、双方向的な会議を行えている。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村の職員との連携は、運営推進会議以外行き来する機会をまだつくっていない。	○ 運営推進会議に参加している市の職員や研修等の参加した際に、情報収集や意見交換を行い、一緒にサービスの質向上に取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	利用者一人一人を尊重し、権利擁護者としての意識を持ち、よりよいサービスの提供を目指している。	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	勉強会などを通じて高齢者虐待防止法への理解を深める取り組みを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の自己決定の権利を尊重し、契約時は重要事項説明を丁寧に行い、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、納得・同意を得られるように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本位の運営を行えるなら、日々利用者の状態把握につとめるなどして、不満や意見を言い易い関係が築かれている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、日々の生活状況や変化していることを話し、心身の状況変化に伴い、早めの対応が必要な際には電話連絡をしている。また、毎月ホーム便り送付の時に、一人一人のエピソードや暮らしぶりを書いた手紙や写真と一緒に、預かり金の明細はコピーし、領収書を同封している。	○	行事参加時の写真や作品等をリビングに展示して、ご家族来訪時に見ていただいている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、月末に開封し、意見等あれば職員会で検討している。また、意見設置箱周辺と重要事項に外部の苦情担当連絡先を記載している。さらに、年2回「ご意見・ご要望アンケート」を送付し、母体病院に返送されるシステムを取り入れている。また、年1回以上の家族会開催時に同席し、意見等を聞く機会を設けている。	○	ご家族の来訪時にも意見・要求等を伺っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所の職員会やユニットごとのカンファレンスを含む勉強会等で意見・提案・要望等を話し合っているが、不満や苦情は言いにくい部分もあり把握しきれない可能性はある。また、母体病院には、「メンタルヘルスケア」を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各ユニットの職員を固定化し、利用者が安心し、生活できるよう心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはユニット毎に職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心掛けている。新しい職員が入る場合には、利用者きちんと紹介し先輩職員とケアにあたり、関係作りに努めている。また、新人職員の勤務体制は、業務内容に追われず、利用者を十分把握できるよう、勤務時間帯にも配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内外の学集会、研修、報告会には全職員がケア向上を目指して順番に参加できるよう努めている。また、研修報告は勉強会で資料配布し、全職員が閲覧している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会に加入している。また、研修会でのネットワークの中で交流を図れるよう支援している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の職員会、勉強会で親睦の場を作り、意見・要望・ストレス等を話し合う時間を確保し、職員の声聞きながらストレス軽減に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	母体病院の所属部長が1週間に1回以上来訪し、職員の個々と話しをする機会を持ち、意欲を持って働けるよう努めている。また、個別面接し、目標に向けて向上心をもって働けるよう取り組んでいる。	
<p>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面談で本人と職員が交流をもち、思いを傾聴するよう努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が望んでいることや困っていることをよく傾聴し、どの様に関わっていくのか事前に話し合っている。	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	家族の不安や心配などをしっかり受け止めた上で、他のサービスも含め可能な限りの対応を行うよう努めている。	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人・家族に見学に来ていただき、職員も面会に伺っている。また、家族と連絡を取り合い、心身の状況、生活歴、趣味など把握した上で安心して利用していただくようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で支援する側される側ということ意識せず、喜怒哀楽等の利用者の思いを理解するよう努めている。利用者から料理、掃除の仕方、畑仕事等の生活の技を教えていただいている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話、手紙などで密に連絡を取り合っていく中で、家族の思いに寄り添いながら支援していることを伝えている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の思いや状況を見極めながら、本人とのつながりを深めていけるような場面や機会作りをしている。行事に家族を誘ったりしながら、よりよい関係の継続に努めている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からでた会いたい人、行きたい場所を家族に伝えている。また、家族に行事への参加の声掛けを行っている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性についての情報を全ての職員が共有できるようにしている。心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。個別に話しを聞いたり、相談に乗ったりみんなで楽しく過ごす時間や利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、入院継続の場合は、面会に行き、状況に応じて再度受け入れも考える。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中での本人からの語りや、来訪時の家族・友人から話を聞き、生活歴の把握をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティングを通じて各利用者の生活リズム・活動・その日の気づき等、チームで情報を共有し、総合的な把握に努めている。排泄シート・申送ノート・バイタルチェック等を毎日確認し、役割（掃除・洗濯物干し等）を通じて、心身の状態を含め、全体像を捉えている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会で、意見交換やモニタリング、アセスメントも含め、カンファレンスを行っている。本人の希望や家族の意向を反映した介護計画の作成に取り組んでいる。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の職員会でカンファレンスを行い、各利用者の状態の変化介護の進行状態を確認している。この事によりチームとしての共通の情報を認識し、計画の見直しを検討している。また、状態の変化があればその都度検討し見直しを行っている。家族の来訪時に利用者の状況を伝え、意向があれば反映し、新たに介護計画作成に取入れている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	個別に協働していけるよう進めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>住み替え時には、本人・家族から個人情報使用同意書による包括的な同意に基づき、これまでの生活環境、支援内容注意点につき、情報提供し、連携している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>プライバシーや個人情報の取り扱いについては秘密保持を全職員が認識し徹底を図っている。理念にも尊厳を掲げており、ミーティングや勉強会の時などに意識の向上を図っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>一人ひとりに合わせた声掛けをし、表情や反応に注意し、利用者の希望や関心事・好みを把握し支援している。利用者が選択できるような言葉掛けをし、利用者の希望や思いに沿った取り組みを心がけている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>本人の気持ちを尊重し、自由な生活ができるよう、個別性のある支援を行っている。例えば食事時間は一応定めているが強制ではなく目安とし、朝食は起きられた方からなど、一人ひとりのペースに合わせ柔軟に支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>本人の馴染みの理容室や好み的美容室を利用するなど、利用者の意思を尊重し、不十分なときに支援している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等、押し付けにならないよう、一人一人がやりたいこと・得意な作業を自分の意志でできるように支援している。食事を楽しむことができるよう利用者と職員が同じテーブルを囲み、買い物や庭で作った野菜など利用者と一緒に収穫や下ごしらえを行い、食事中的話題作りにもなっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好物を理解し、いつでも楽しめるように支援している。 冷蔵庫を利用しやすい場所に設置し、好きな時に気兼ねなく冷たい飲み物が飲めるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレへの声かけ・誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。 個人に状態に応じ、リハビリパンツから失禁パンツへの変更、また紙オムツからリハビリパンツへの変更をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し、ゆっくりと入浴して頂く。拒否がある場合は、言葉掛け対応の工夫や、職員のチームワークにてできている。 安心感を持って入浴していただくように着脱時、洗身時の行動に対して説明と声掛け・会話などを実施している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、職員がそれを共有することで、休息への声掛け、安眠につながる工夫をしている。その日の体調を考慮し、日中には適度な体操・散歩また利用者自身が積極的に取り組める役割などで充実感を持って頂くようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の得意とすることや、生活歴などから本人が好むまたはできそうな仕事を頼み、職員も共にすることによって、会話も弾み、昔話などへ発展していく。一人ひとりの好みを理解し、散歩・唄・音楽鑑賞などそれぞれに対応し、また全体で楽しめるレクリエーションなどで心身共に満足感を得られるよう配慮している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品（歯磨き、石鹸等）を買いたいと申し出があった場合、所持金の有無を本人に確認し、職員同行するが支払いは本人が行っている。自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につながるよう、手元に持たれている利用者もいる。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者より外出（買い物、散歩、美容院など）の申し出があった場合は個別に対応し、また閉じこもりがちな方の場合、一緒に行っていただけないでしょうかなどの声掛けにより、庭に出たり、戸外へ出るようにしている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の会話の中で利用者の希望を聞き、行きたい所（花見・美術館等）を行事に取り入れるようにしている。行事にバスレクリエーション、コンサートなどがあり、また地域の催し物などにも積極的に参加している。ご家族にも参加を呼びかけ、一緒に楽しんでいただくようにしている。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合や職員が家族に電話をかける機会があるときは、ご本人にも電話に出て頂き、話をして頂いている。また、手紙も書かれている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めておらず、いつでも気軽に訪問して頂けるような雰囲気作りを心がけている。また遠方にご家族がご本人の居室に宿泊されることもある。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、ミーティング、申し送り等で常に職員の共有認識を図っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も日中は開放しており、職員の見守り方法を徹底し、利用者一人ひとりの状態を把握し自由に過ごしていただけるよう配慮している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や変化に注意しながら、気づいたことは職員が共有し、安全に過ごしていただけるよう心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の力を活かした作業をする際、刃物等を使用する場合は常に職員が付き添い見守っている。利用者の状況・状態に合わせて物品とその管理方法を検討し、安全で穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。全て取り除くのではなく、個人が今まで行っていた特技や趣味を把握し、それに応じた安全な環境作りを心掛け、危険だと判断した物品等は家族への説明、了解を得た上で職員のみ出入りする場所に保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットは職員全員で共有し、未然の防止に努めている。万が一事故が発生したときは速やかに事故報告書を作成し、介護事故検討会議を開き、原因分析、対応方針を検討し、家族への説明と報告を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急処置研修受講。マニュアル整備し、周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者とともに避難訓練を行い、地域運営推進会議などで町内の方の協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時や退院時はもちろん、面会時に現在の本人の状態等を説明し、リスクについての対応策を家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックや日頃の状態を職員は把握し、早期発見に努めている。異常がある場合は、スタッフ間で情報を共有し対応している。週1回訪問看護師が来られ、入居者の身体状況を観察している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤シートを個人日誌に整理し、薬の本などによっても内容や副作用等を把握するようにしている。また、誤薬がないように服薬時には、常に職員間でダブルチェックを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	職員全員が利用者一人ひとりの状態を把握し、食材の工夫や運動、水分補給などで自然な排便ができるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、その人に応じて職員が見守り、支援している。週2回、就寝前に義歯洗浄を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、メニュー、バランスを考慮し、食事形態も個別対応している。水分摂取量についても記録することにより把握している。定期的に栄養計算を依頼しチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	事業所内でマニュアルを作成し、職員が感染症に対する勉強会参加時には、資料を配布し伝達講習を行い、予防・対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所全般の清潔・衛生を心がけ職員で取り決め、掃除等実行している。 新鮮で安全な食材を使用するため、短期間で使い切っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に花や野菜を植え、テーブル・椅子を置いている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と居間が近接していて、食事の準備の際には、何ができあがっているのかがわかるよう匂いが漂う環境となっている。また、居間には入居者と一緒に季節の花などを飾っている。トイレや廊下の照明については、暗い中で過ごさないよう配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で座る位置に指定はなく、食卓の椅子等もテレビを観賞する際には利用し、自分の居場所を確保している。また2階の廊下にソファを置き、一人で過ごすスペースを設けている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みを確認し、ご家族とも相談しながら、使い慣れた物や使いやすい物（時計など）を持ってきていただき、居室に置いている。また、家族の写真なども飾られている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際には窓を開け、換気を常に行っている。職員が気になる臭いを感じたら、原因となるものを取り除くようにしている。また居間や居室と廊下、洗面所、脱衣場の温度差が出ないようエアコンや扇風機を使用している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自分らしい生活を継続していただけるよう、利用者一人ひとりの希望等を把握し、ご家族と話し合いを重ねながら、自由な生活に向けて支援をしています。また、ホームが居場所であることを実感できるように、一人ひとりに合った楽しみを探し職員も一緒に楽しんでいます。職員は研修への参加や勉強会を行い、個人としての介護力を高めるとともにチームケアの質の向上に努めています。